



Title	GLOCOLブックレット10 目次
Author(s)	
Citation	GLOCOLブックレット. 2013, 10
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48329
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

GLOCOLブックレットの創刊にさいして

「GLOCOLブックレット」は、大阪大学グローバルコラボレーションセンター（以下、GLOCOL）が企画・実施している、教育、研究、実践の3領域にわたる活動の成果を大阪大学内外に知らしめるために創刊されました。2007年4月に開設されたGLOCOLは、大阪外国語大学との統合後の新大阪大学における新たな教育理念を具現化するため、教育プログラムの改革をおこなうことを第一の使命としています。

グローバル化のなかで、現代の世界は、紛争、貧困、文化の衝突、感染症、環境破壊といったさまざまな問題に直面しています。経済的繁栄のなかで、他の国や地域の問題は「他人事」ですましてきた日本という国の住民も、ナショナルな枠組みのなかで安住することはもはや困難になっています。現在の総合大学に課されているのは、こうした世界の状況を適切に理解し、その改善や解決に向けて真の「国際性」(intercultural communicability)をもって主体的に行動することのできる人材を養成することであると考えます。この責務を実現するためには、従来の学部・研究科の枠組みを超えた連携(コラボレーション)が必要です。連携のパートナーには、学外・国外の研究機関、開発援助機関や市民団体も含まれます。GLOCOLの役割は、こうした連携の媒介者兼牽引者となることです。

先端的な教育プログラムの開発は、先端的な研究の裏打ちがあってはじめて可能になるものです。GLOCOLが、「人間の安全保障」と「多文化共生」を二つの柱とする研究の推進に力点を置いているのはそのためです。また、GLOCOLにおける教育研究のプロジェクトは、現代世界の動態と深く関連しているがゆえに、学生と教員の双方は必然的に「現実とのかかわり方」の模索を求められることになります。それゆえに、GLOCOLが教育・研究・実践の「三位一体」をスローガンにしているのです。

「GLOCOLブックレット」は、シンポジウム、ワークショップ、研究プロジェクト、教育プログラムの開発、実践とのかかわりなど、GLOCOLのさまざまな事業を報告するメディアです。皆様のご理解とご支援をお願いするしだいです。

2009年2月

大阪大学グローバルコラボレーションセンター
GLOCOLブックレット編集委員会

中国における食品の安全・安心

China's Food Safety and Security in China

思沁夫[編]

目次

はじめに ————— 思沁夫 — 003

中国食品の安全性と状況に関する現地調査の報告
————— 思沁夫、鍋師裕美ほか — 007

【第1部】学生の活動報告(大阪大学)

中国研修からの学び 調査から1年を経たの省察 ————— 岸本紗也加 — 059

食の安全と健康環境 タイ、ベトナム、中国、日本の事例をもとに ————— 渡邊智子 — 071

資料:中国研修及びシンポジウムに関する活動報告 ————— まとめ:岸本紗也加 — 082

【第2部】学生及び教員の活動・研究報告(中国)

日本における海外交流プログラムを振り返る ————— 王莎莎、曲明椿、楊斯超 — 093

経済成長下における中国の食品安全に関する現状
————— 陳芳、胡小松、楊斯超、曲明椿 — 105

食の利便性と危険性 中国農村部における食文化の変化について — 趙旭東、王莎莎 — 117

雲南における食文化の多様性保護と発展
グローバル化の進展を背景として ————— 于千千 — 127

グローバル化の過程における食、環境安全、農村の持続可能な生活
中国雲南省の松茸貿易を事例に ————— 吳於松 — 133

資料:国際交流活動に対する中国の学生及び教師の感想と意見 ————— 思沁夫(編訳) — 141

あとがき ————— 思沁夫 — 145